



【感染症だより】

～インフルエンザ流行について第3報～

あちらこちらの学校でインフルエンザによる学級閉鎖や学年閉鎖が実施されています。学級閉鎖の期間は、学校からのお知らせを見ていると2～3日だったり、土日を含めても4日間程度となっているようです。有効な学級閉鎖に関する研究によれば、欠席割合が20%であれば、6日間（土日含む）閉鎖することで学級閉鎖後の欠席者割合を減少させることが期待できるようです。そうして考えると、現行の期間では、閉鎖後もインフルエンザが流行し続けることが推測されます。学級閉鎖が終わっても、安心せずに手洗いうがい、休養・栄養・水分摂取、適度な室内加湿・換気などを心がけましょう。

現在流行しているインフルエンザは、9割方がA香港型ですが、発熱・頭痛・関節痛のほか、嘔吐・下痢などの胃腸症状を起こす方もいます。胃腸症状を起こした場合には、脱水症を起こす可能性が高くなり注意が必要です。嘔吐や下痢が頻回でぐったりとした時には、点滴治療が必要となりますので、医療機関を受診しましょう。

表：1月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザA	161
2	胃腸炎	82
3	肺炎（マイコプラズマ含む）	6
4	溶連菌	4
5	突発性発疹	3
6	水痘	2
7	おたふくかぜ	1
7	インフルエンザB	1

- ★インフルエンザではこんな症状に注意しましょう★
- 手足を突っ張る、がくがくする、目が上を向く、白目をむく、けいれんの症状がある
 - ぼんやりして視線が合わない、呼びかけに答えない、眠ってばかりいるなど意識障害の症状がある
 - 意味不明なことを言う、走り回るなど、いつもと違う異常な言動がある
 - 顔色が悪い（土気色、青白い）唇が紫色をしている（チアノーゼ）
 - 呼吸が速く（1分間に60回以上）息苦しそうにしている
 - ゼーゼーする、肩で呼吸する、全身を使って呼吸をする呼吸困難症状がある
 - 「呼吸が苦しい」「胸が痛い」と訴える
 - 水分が摂れず、半日以上おしっこが出ていない
 - 嘔吐や下痢が頻回にみられる
 - 元気が無く、ぐったりしている
- 以上のような症状があるときは、もう一度受診しましょう（日本小児科学会より）

文責： 清水マリ子

